西深川橋

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋
架設年次：昭和５年２月
所 在 地：江東区森下三丁目から
　　白河一丁目間小名木川に架かる
橋　　長：56.1m
幅　　員：13.9m

国土地理院地図に加筆

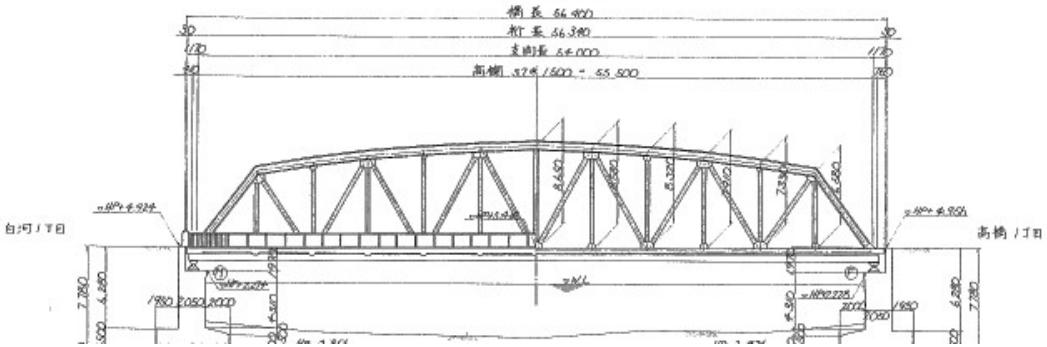
現在の様子

現在の様子

昭和53年撮影

西深川橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。
トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。
ワーレントラス（トラス＝構）は、トラスの一種で、斜材の傾斜の方向を交互に変えたトラスのことです。James Warrenが発案したことから、この名称で呼ばれています。

側面図



景観整備工事について

平成2年に行き交う人の「安らぎ」をテーマに景観整備工事を実施しました。
橋台敷には、魚を題材にしたモニュメント「ゴンベッサ」を設置し、水陸両面からのランドマークとしました。また、橋名塔は、モニュメントのシーラカンスと同時代のアンモナイトをヒントにしており、太古の生物から心の安らぎを得られます。

説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。